

深川探索

松尾芭蕉・2

健康管理のためウォーキングに精を出しておられる読者の方も多いと思いますが、JSTTのある江戸・深川は、図らずも日本を代表するウォーキング三大元祖とも言える「松尾芭蕉、伊能忠敬、間宮林蔵」が暮らし歴史を刻んだ地として有名です。

芭蕉は45歳で150日2,400kmにも及ぶ『おくのほそ道』を行脚、伊能は55歳から15年間歩測69cmを駆使して日本沿岸を踏破して『大日本沿海輿地図』を著し、間宮は35歳より樺太探検を始め『間宮海峡』に名を残しました。いずれも中年期からの偉業にびっくりです。

ここ深川には、こうした偉人の事跡を様々な工夫で探訪できるようウォーキングコースが企画され、街の角々に旧跡を解説した「江東みちるべ」が建てられています。今回は、中でも芭蕉が暮らした深川の地に焦点をあて、JSTTからウォーキングで探訪可能なゆかりの史跡をご紹介します。

◆芭蕉も愛でたであろう川面の景色 芭蕉庵史跡展望庭園 (江東区常盤1-1-3)

JSTT事務局から西に歩いて15分程で平成7年にオープンした「芭蕉庵史跡展望庭園」に辿り着きます。ひなびた枝折戸をくぐり石段を登って行くと隅田川すみがわと小名木川おなぎがわが分流する地点に芭蕉翁の坐像が建てられています(写真-1)。小さな池も造られ周りには芭蕉樹も茂り、雰囲気満点なのですが、笑っちゃうのは夕方5時になるとタイマーが作動して芭蕉の坐像は奥の細道に旅立って行った清洲橋の方に回転するのです。この庭園は高台になっているので、今頃は川面からの風が肌に心地良く、隅田川の対岸を望む景観が気持ちよく広がります。葛飾北斎は庭園の隣に位置する万年橋から望む富士を「富嶽三十六景」に描いています。そして、小名木川が隅田川へと注ぎ込むこの辺りこそ、芭蕉の庵があった場所であり芭蕉翁も朝な夕の富士山の姿にどんなにか感動をもったことでしょう。(残念ながら今はビル郡が邪魔をしてこの地から富士山を見ることは叶いません)

◆江戸下町に芭蕉の足跡を求めて 芭蕉稲荷神社 (江東区常盤1-3-12)

芭蕉庵史跡展望庭園を出てすぐのところに、赤いのぼりがひるがえる「芭蕉稲荷神社」があります(写真-2)。芭蕉が愛でたとされる青い石(小松石)の蛙が、1917年(大正6)の天津波の際にこの地で発見され、ここを芭蕉庵跡の旧跡と定め稲荷社が祀られたそうです。これまでに火事による焼失などで芭蕉庵は二度建て替えられており、正確な場所の確定には至っていないようです。

◆一年を通じ芭蕉の句が紹介されている仙台堀川兩岸 彩茶庵跡 (江東区深川1-9)

海辺橋の北詰東側に旅装束の芭蕉翁銅像を安置した彩茶庵があります(写真-3)。道路添いの瀟洒な庵の縁側にドッカと腰を下ろした芭蕉像にはいささか驚きですが、やはりここも有名観光コースとあって、ひっきりなしにカメラに収める人や直接銅像に触る人・・・正に深川の有名人です。近くの仙台堀川の兩岸には、植木に短冊が飾られ季節々に芭蕉の代表句を楽しめるようになっています。



写真-1

隅田川の上流千住方向を眺望する「芭蕉翁之像」



写真-2

密集する民家の中に祀られる芭蕉稲荷大明神



写真-3

平成3年に江東区が設置した「彩茶庵跡」
『おくのほそ道』紀行に旅立つ芭蕉翁の銅像が印象的

その5 ☆文・写真 小田 泰平

元編集担当

